

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)									
ET46J019		臨床心理展開実習(心理実践実習A)(Basic Practical Training in Clinical Psychology II(Advanced Practical Training in Psychology A))					臨床心理学									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	1	大学院教育学研究科	通年		氏名 武内珠美・渡辺巨・佐藤晋治・溝口剛・河野伸子・池永恵美 E-mail wwata@oita-u.ac.jp 内線 7585										
授業の概要	実際の援助に携わる前に、心理教育相談室における相談活動の補助やカンファレンスでの観察学習等を多く行うことで、援助に関する基礎的な知識や技能を学ぶ。また、心理教育相談室のクライアントに対する試行的な援助実践等を行うことで、学びを具体化し、より実践的なものに高める。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)										
目標1 相談室における援助のシステム・ルール・流れ等を理解すること。						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標2 クライアントへの対応に関する基礎技能(電話対応、見立て、マネジメント、連携等)を習得すること。																
目標3 心理職に必要な心構え・態度(クライアントのへ配慮、尊重、傾聴、共感、肯定的関心、心理学的理解、責任をもった役割遂行)																
目標4 心理職になる上での自己の課題に気づき、その深化あるいは修正につとめること。																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 オリエンテーション(相談のシステム、ルール、倫理と法的義務)																
2 心理教育相談室での活動(電話対応) 心理教育相談室での活動(相談受付・聴き取り)																
3 心理教育相談室での活動(問題の見立て)																
4 心理教育相談室での活動(支援計画の策定)																
5 心理教育相談室での活動(チームアプローチ)																
6 心理教育相談室での活動(他機関連携・地域連携)																
7 心理教育相談室での活動(危機対応)																
8 心理教育相談室での活動(環境と構造の整備)																
9 試行的な援助実践(検査)																
10 試行的な援助実践(面接や遊戯療法)																
11 スーパービジョン																
12 カンファレンスへの参加(事例発表)																
13 カンファレンスへの参加(事例検討)																
14 事例検討会への参加																
15 経験者の面接への陪席と指導																
ラック	A:知識の定着・確認	口頭試問, 体験活動, 陪席, 学生の過去の体験との紐付け, 調べ学修(文献, インターネット), Moodleの活用,										工夫	その他			
モニタ	B:意見の表現・交換	発表, ディスカッション, 相互教授, 学びの省察, 共同執筆,														
インディ	C:応用志向	ロールプレイ, 事例研究,														
グループ	D:知識の活用・創造															
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	担当ケースの問題の見立てや支援方略の策定に関連した調べ学修。左記調べ学修及び担当ケースの状態等に基づく、問題の見立てや支援方略の策定。使用する可能性のある心理検査の実施法の修得。その他、実習において指示する。(1回あたり120分)														
	事後学修	電話受付ケースの問題の見立てに関連した調べ学修。左記調べ学修及び電話受付ケースの状態等に基づく、問題の見立て。各セッションにおけるケース記録。心理検査報告書。その他、実習において指示する。(1回あたり120分)														
教科書	使用しない															
参考書	適宜紹介する															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	上記(授業の内容の項)に関する取り組み	50%														
	最終レポート	25%														
	口頭試問	25%														
注意事項	本実習の受講は、臨床心理学コースの大学院生に限る。公認心理師受験資格取得のために、本科目を含む所定の科目で、心理実践実習の時間は、450時間以上、また、実習において担当ケース(心理に関する支援を要する)															
備考	本科目は臨床心理士受験資格取得に関する必修科目である。臨床心理士受験資格取得のための必修科目については、別に配付する資料に基づいて履修すること。また、公認心理師受験資格取得のために必要な科目でもある。															
リンク																
	URL															